

東小発 12 歳の平和宣言「未来がよりよくあるために」

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力

単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語第5学年及び第6学年「A話すこと・聞くこと」の指導事項「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。」と「B書くこと」の指導事項「ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」「ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」の内容を受けて設定したものである。ここでは、「B書くこと」の言語活動例「イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。」を具体化し、平和についての考えを「平和宣言」として発信することを単元を貫く言語活動例として設定した。本単元では、話し手の意図をとらえながら聞き、自分と比べながら考えをまとめる力、目的に応じて必要な情報を収集・整理し、自分の考えと事実とを区別しながら書く力を育成することをねらいとする。

教材文「平和のとりでを築く」は児童が宣言文を書くにあたり、平和についての考えをもつ資料として扱う。過去の歴史から未来の平和の在り方についての筆者の考えを事実と意見を整理しながら読み取らせ、筆者の主張に対する自分の考えを交流することを通して、平和な未来に向けての自分の考えを方向付ける。教材文で学んだことを生かし平和宣言文を書くという目的に応じて、必要な情報を収集・整理し、事実と意見とを明確にして書く単元構成とした。

- 本学級の児童は、平成27年度全国学力・学習状況調査において、国語A³「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べるなどして考えをまとめることをとらえる」問題の正答率は47.1%であった。また、「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く」問題の正答率は55.8%であった。この結果から、自分の考えと比べながら共通点や相違点、共感したことをまとめることや、自分の考えに説得力をもたせるために必要な情報を効果的に活用したりすることに課題があることが明らかとなった。一学期には討論会や説明的な文章を学習において、話題に沿って、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えと比べながらまとめることや、自分の考えと事実の関係を押さえ、筆者の主張と事例などについて話し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることを重点的に指導してきた。しかし、自分と比べながら友達の考えを聞いたり、自分の考えに説得力をもたせるために必要な情報を効果的に活用したりするにはまだ課題がある。

- **主体的に学ぼうとする「課題発見・解決学習」の単元開発**

指導に当たっては、導入時に総合的な学習の時間での校外学習などの学習を振り返り、被爆地広島に関する意識と他地域の広島に関する意識のずれに気付かせ、学習への意欲を高める。被爆地である広島県で育った子どもとして、未来に向けて最も大切にしていきたいことを考え、伝えたいという願いをもたせた上で、「東小発 12 歳の平和宣言」として発信していくという**課題設定**を行う。その願いが連続発展できるように「東小発 12 歳の平和宣言」では、平和宣言を発信することを目的として、主体的に情報を収集したり、平和についての考えを友達と交流したりする学習と並行して、総合的な学習や家庭学習を関連して進めていく。総合的な学習の時間では、平和宣言の発信方法について話し合

わせたり、実際に平和宣言を発信したりする活動を行い、目的意識や相手意識をより明確にもたせる。

情報収集の段階では、教材文「平和のとりでを築く」を通して、筆者が述べる平和についての主張とそれを支える事実（根拠）をとらえる。筆者の平和に対する主張について、自分の考えをまとめ、交流させる場面では、自分と友達との共通点、相違点、関連付けに留意させることで深めさせたい。必要な情報の収集については、被爆 70 周年に関連した、平和に関する新聞記事やニュース、平和に関する図書や資料、被爆体験などのインタビュー等、多様に扱う。その際、自分の考えに説得力をもたせることを常に意識させながら取り組ませる。**整理・分析**の段階では、収集した情報を整理し、自分の考えとそれを支える適切な根拠を、考えと事実のつながりに着目してまとめさせる。構成表にまとめ際は、自分の考えと支える根拠とを関連付けながら付箋を使って整理させる。また、自分の考えと支える根拠について交流することで、説得力をもたせる工夫をする。より説得力のある事実を根拠とすることについて話し合うことを通して、自分の考えをより明確にさせたい。

まとめ・創造・表現の段階では、構成表をもとに自分の考えを平和宣言にまとめる。平和宣言完成後には、平和宣言を交流し、自分と友達との共通点、相違点、関連を見付け、さらに自分の考えを深める。また、総合的な学習の時間との関連を図り、決定した平和宣言の発信方法で「東小発 12 歳の平和宣言」を発信させる。

振り返りの段階では、これからの実生活に生かしていきたいこと、身に付けた力をどう生かしていくかを考える。また、互いの意図をとらえながら聞き、自分の考えと比較しながらまとめたり、説得力をもたせるための情報収集・整理を行い、考えと事実の組立て方を工夫したりした学習活動を振り返ることで、自分の考えが広がり深まったことに気付かせる。さらに平和な未来の実現に向けて、今後も「平和」についての自分の考えをもち続ける契機としたい。

○ 「学び合い」における協働的な思考の場の工夫

本単元では、考えと事実を関連付けたり、多面的にとらえたりする思考力の育成を目的とし、協働的な思考の場の工夫を行う。

平和宣言に向けてのテーマの設定の場面では、思考ツールのイメージマップを用いて、平和の実現のために自分にできることを出し合い、自分と友達とを関連付けながら自分の考えを明らかにしていく。

また、自分の考えの中心を明確にし、支えるための根拠を選ぶ場面では、思考ツールの構成表に整理させる。構成表を用いた交流を通して、自分の考えと根拠となる事実の効果的な組み立て方を見直し、説得力をもたせるようにする。相互に学び合い、新たな課題や自分の考えを明確にしていくことにより、協働的に学ぶことの意義やよさを実感させたい。

単元の目標及び内容について

- 平和について様々な情報を集め、友達との交流を通して主体的に宣言文を書こうとしている。
【関心・意欲・態度】
- 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べるなどして、12歳の平和宣言に向けた考えをまとめることができる。
【話すこと・聞くこと エ】
- 平和な未来の実現に向けた自分の考えが説得力をもつように具体例や資料を収集し、整理することができる。
【書くこと ア】

○ 自分の考えと事実、感想などを区別するとともに、自分の考えに説得力をもたせるために必要な情報を平和宣言文に簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。 【書くこと ウ】

○ 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(キ)】

単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
【単元を貫く言語活動】 12歳の平和宣言を発信するために、調べたことや意見文にまとめたことを友達と交流し、自分の考えを深める。			
平和について様々な情報を集め、主体的に自分自身の問題としてとらえて、考えを交流したり書いたりしようとしている。	交流の際に、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点、関連付けて考えたことをまとめている。(エ)	平和な未来の実現に向けて必要な情報を集めて自分の考えを明らかにしたり、自分の考えを支えるための根拠や事例となる材料を収集したりしている。(ア) 自分の考えを明確に伝えるために、必要に応じて自分の考えやその根拠となる事実を区別しながら、端的に書いたり、詳しくまとめたりしている。(ウ)	文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることに理解している。(イ(キ))

指導と評価の計画

全11時間(本時7/11時間)

次	時	学習活動	評価				評価規準	評価方法
			関	話聞	書	言		
一	1	<p>課題の設定(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○未来に向けて最も大切にしていきたいことを考え、平和宣言を行うことを学習課題として、学習計画を立てる。 ・広島県で育つ子どもとして、平和な未来の実現に向けた考えを交流し、自分の考えをもつ。 ○発信するための平和宣言のテーマを考える。 ・宣言文のモデル文を参考に宣言文のイメージを明らかにする。 ・自分と友達の考えの共通点や相違点、関連付けたことを分類し、整理する。 <p>並行読書・情報収集</p>	○				<ul style="list-style-type: none"> ・平和な未来の実現に向けて必要なことや被爆地である広島について知っていることなどを積極的に話し合おうとしている。 	行動観察 イメージ マップ
		<p>総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平和宣言の発信方法について考える。 ・いつ、どこで、だれに、どのように自分の考えを発信するのが適切かを話し合う。 						

次	時	学習活動	評価					
			関	話聞	書	言	評価規準	評価方法
二	2	情報の収集（４） ○教材文「平和のとりでを築く」を読み，筆者が述べる平和についての考えとそれを支える事実（根拠）をとらえる。 ・原爆ドームがたどった歴史，世界遺産への道のり，原爆ドームに対する思いや願い。			○		・自分の考えに説得力をもたせるために筆者の考えとそれを支える事実をとらえ，必要な情報を収集している。	行動観察 ノート
	3	○筆者の平和に対する考えについて，自分の考えをまとめ，交流する。 ・自分と友達との共通点，相違点，関連付けたことをもとに自分の考えを広げる。		○		・平和に対する考えを交流し，自分と友達の共通点や相違点，関連付けて考えたことをまとめている。	行動観察 ノート	
		総合的な学習の時間 ○平和宣言に向けて，自分の考えに必要な関連資料の選択方法や，根拠となる情報の収集方法について話し合う。						
二	4	○自分の平和宣言のテーマに基づいて宣言文を書くために必要な情報を集める。 ・テーマをもとに必要な情報や材料を取捨選択する。			○		・自分の考えに説得力をもたせるために必要な情報を効果的に活用している。	行動観察 ノート 付箋
	5	○集めた情報から自分の考えを支える根拠となる事実を整理する。			○		・自分の考えに説得力をもたせるために必要な情報を整理している。	行動観察 ノート 付箋
三	6	整理・分析（３） ○自分の考えとそれを支える適切な根拠を構成表にまとめる。 ・自分の考えに説得力を増す根拠を選ぶ。			○		・自分の考えと事実，感想などを区別しながら，構成表に必要な情報をまとめている。	行動観察 構成表
	7	○交流を通して，自分の考えに説得力をもたせる。 ・自分の考えを支える資料の組立を見直す。 ・友達の考えの意図をとらえながら，共通点，相違点，関連付けて考えたことを整理し，構成表を見直す。 【本時】			○		・宣言文に書く自分の考えと根拠となる事実について，説得力をもたせるための根拠となるように考えを深めている。	構成表 ノート
	8	○交流を通して明らかになった自分の考えを見直し，構成表に整理する。 ・自分の考えを支える資料の組立を構成表にまとめる。			◎	○	・交流を通して，自分の考えに説得力をもたせるための事実（根拠）を見直しまとめている。 ・目的に応じて，平叙文，呼びかけや疑問を表す文などの様々な構成に使い分けている。	構成表 ノート

次	時	学習活動	評価					
			関	話聞	書	言	評価規準	評価方法
四	9	まとめ・創造・表現（２） ○完成した構成表をもとに自分の考えを平和宣言にまとめる。 ・宣言文にふさわしい表現の工夫を考える。			○		・自分の考えとそれを支える事実を平和宣言にまとめている。	平和宣言文
	10	○「東小発 12 歳の平和宣言」平和宣言を交流し、自分の考えを広げる。 ・友達の考えの意図をとらえて聞き、考えや事実の取り上げ方のよさや自分の考えとの共通点、相違点、関連付けて考えたことをまとめる。 ・前回の交流と比べて説得力の増した点や、互いの考えのよさを交流する。		○		・自分の考えに説得力をもたせるために活用する情報を交流し、考えをまとめている。	平和宣言文	
		総合的な学習の時間 ○「東小発 12 歳の平和宣言」を発信する。 ・多くの人に向けて自分たちの考えが伝わるように平和宣言を発信する。						
五	11	振り返り（１） ○学習を通して、自分の考えを広げたり深めたりしたことを振り返る。 ・これからの生活に生かしていきたいこと、身に付けた力をどう生かしていくかを考える。	○				・交流を通して、自分の考えがどのように変わったかを考えている。	ノート

本時の学習

（１）本時の目標

- 自分の考えに説得力をもたせるための事実（根拠）について交流し、考えを深める。

（２）本時の評価規準

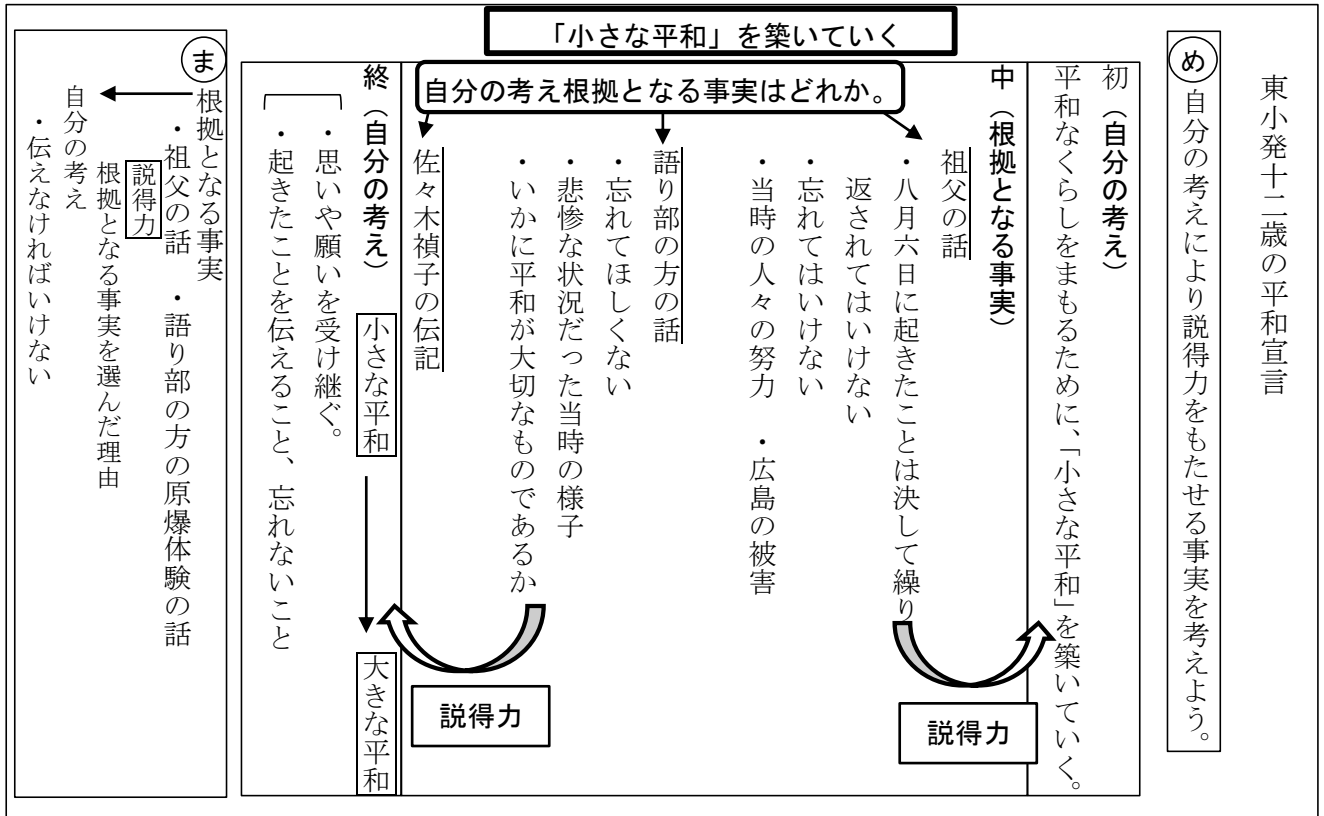
- 宣言文に書く自分の考えと根拠となる事実について、説得力をもたせるための根拠となるように考えを深めている。 **【書く能力】**

（３）本時の学習展開（７時間目／全 11 時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 （評価方法） ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
1 前時の学習の振り返りを行う。 ・初め、中、終わりの構成 ・双括型の構成 ・事実と考えの区別 めあて 自分の考えにより説得力をもたせる事実を考えよう。	◇前時にまとめた構成表をもとに、付箋に書いた根拠となる事実が、自分の考えを明確にするものになっているかどうか見直す必要感をもたせる。	
2 構成表をもとに、自分の考えを交流する。 ○自分の考えを支える根拠となる事実を交流しよう。 （根拠となる事実の例） ・親戚の話、語り部の方の話 ・インタビュー ・戦争に関する本や伝記 ・ニュースや新聞	◇付箋に書いた自分の考えの根拠となる事実と友達のを比較させながら、共通点や相違点、関連付けて考えさせる。 ◇自分の選択した事実が自分の考えを支える根拠になっているかどうかに着目させる。	☆平和についての考えを交流することを通して、自分の考えを深めようとしている。

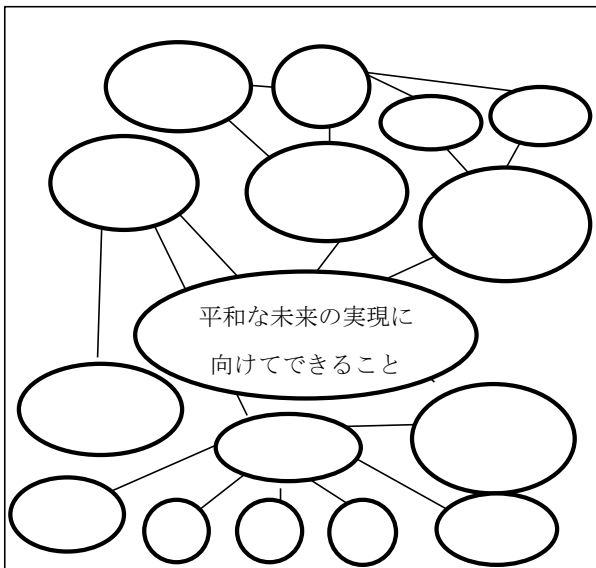
<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p> <p>☆育成したい資質・能力</p>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>□思考の場の工夫 関連付け</p> <p>交流を通して気付いた自分と友達との共通点や相違点，関連付けて考えたことをまとめる。</p> <p>(構成表)</p> </div> <p>3 付箋に書いた自分の根拠となる事実を見直す。</p> <p>○自分の考えの根拠となる事実を二つ選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事実は友達と共通していて，自分の考えに説得力をもたせる事実になっているな。 ・この事実は友達を取り上げた事実とは少し違うが，言葉を付け加えたり言い換えたりすることで使えそうだな。 ・この事実は友達の取り上げた事実と違って，自分の考えに説得力をもたせる事実として使えそうにないな。 <p>4 本時の学習の振り返りとまとめを行う。</p>	<p>◇見直しの際に活用できる印を付箋に付けさせる。</p> <p>◆交流の気づきを伝えることが難しい児童は，自分の考えに近い友達の考えを見付け，感じたことや考えたことを相手に伝えるように声をかける。</p> <p>◇交流の時に付箋に付けた印をもとに，自分の選択した事実が自分の考えの根拠となっているかどうかを見直させる。</p> <p>◇自分の考えと見直した根拠となる事実の構成の効果を考えさせ，自分の考えに説得力をもたせることができるように構成表にまとめさせる。</p> <p>◆交流を通して，説得力があると感じた考えを付箋に書き加えたり，入れ替えたりして構成表に整理させる。</p> <p>◇交流を通して，自分の考え広がりや深まりに気付かせる。</p> <p>◇自分の考えを相手に伝えるためには，自分の考えを根拠付ける事実が説得力をもつことが重要であることに気付かせる。</p>	<p>◎自分の考えに説得力をもたせるための根拠となるように考えている。</p> <p>[書く能力] (構成表)</p>
<p>★めざす児童の姿</p> <p>まとめ (交流前と交流後で，「自分の考えとなる根拠がどのように考えが明らかになったかということ」を押さえている必要がある。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは祖父の話をもとに根拠となる事実として取り上げることとした。語り部の方の「戦争や被爆の事実を忘れないでほしい」という思いを根拠として説明することで，「私自身が学んだことを未来，世界に伝えていかなければならない。」という考えにより説得力が増すと考えたからだ。 ・自分の構成表に「語り部の方の被爆体験の話」を用いることにした。なぜなら，実際に被爆を体験している語り部の方の「戦争や被爆の事実を忘れないでほしい」という思いを根拠として説明することで，「私自身が学んだことを未来，世界に伝えていかなければならない。」という考えにより説得力が増すと考えたからだ。 		
<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して，友達との共通点や違いに気付くことができ，自分の考えに説得力をもたせることができた。 ・構成表を用いた交流をすることで，自分の考えに説得力をもたせるための事実を考えることができた。 		
<p>5 次時の学習への見通しをもつ。</p>	<p>◇次時は明らかになった自分の考えを確かめ，平和宣言文に使う言葉を考えて書くことを伝える。</p>	

(4) 板書計画



<参考> 本単元で使用する思考ツール

(イメージマップ)



(構成表)

終わり	中	初め